

【春日保育園】

◆先生①:

私は、プログラムを通してHくんがクラスの中で発表したり、他の人に何か見せたりという発言をする機会をまだ設けたことがなかったんですけども、その姿が印象に残っていて記入させてもらいました。想像以上に伝える力があることに驚いて、自分の思いや感じたことを表現する力が気付かないうちにこんなにも身に付いていたんだなど少し圧倒されました。

◆スタッフ①:

先生が、Hくんがここまで力が付いていたんだと、やはり今までの積み重ねやこの日のことなどがあると思うんですけども、こういう積み重ね、こういう体験があったからではないかなということはありませんか。

◆先生①:

普段の保育の場でも最後まで話を聞いてあげようというか、まだペラペラとしゃべれる子ではないのですけれども、その話を途中で遮ったりせずにどの保育士も聞いてあげようとして共通して意識していたので、それで自分の言葉を途中で諦めずに伝えるという力が身に付いて、またそれが全体にいてできるのが驚いたことでした。

このエピソードの後にも、クラスの中でその後毎日、散歩で何を見つけたか、今日散歩で何をしたのが楽しかったなどを、全体で読み聞かせをするんですけども、その前に発表する機会をつくっています。そうするとクラスの9割の子が手挙げて、名前を呼ばれたら発表することが今できています。すごくいいクラスとして、子どもたちがこんなことができるんだという新しい発見と、それをまた日々の保育につなげられてすごく勉強になりました。

◆スタッフ①:

うれしいです。以前は散歩の後に発表する機会は…。

◆先生①:

全くありませんでした。普通に読み聞かせをして、保育士が「散歩でこんなことがあったね」と話したら、その歌を歌ってみたりとかだったのですが、最近はずも松ぼっくりを散歩で見つけたと言ったら『まつぼっくり』を歌ってみたりだとか、子どもの意見というか、子どもから出た話から保育につなぐというのがクラスとして増えてきて、すごく勉強になりました。

◆スタッフ①:

そうなんです。それでは、そういう発表をするような機会をまず持てていなかったから気が付かなかった部分もあるけれども、やってみたらたくさんの子がいっぱい発見できるようにって、それを伝えたいという気持ちが湧き出てきて、表現するところまで来ているんですね。

◆先生①:そうですね。

◆スタッフ①:すごいですね。

◆先生①:びっくりしました。

◆先生②:

いつも歩いている散歩の道でも、今日実がなっていたんですけれども、それを今までは通りながら「あ、実があるね」などと話していたのを、この前のこのプログラムがあつてから、子どもたちも止まって見ることがすごく増えました。今日も、いつもだったら「あるね」と通り過ぎるところを、木の横で全員が止まって何の実か考えて「これじゃない？」などと子どもたち同士で言いながら話している姿がありました。今まで割と通り過ぎていたものを、このプログラム後からじっくり立ち止まって見る子どもたちの姿が増えました。

◆スタッフ①:

うれしいですね。立ち止まって見るだけでなく、「この実はあれじゃない？」「あそこにあった実じゃない？」などと、少し予想というか想像をめぐらせたり、また新たな「あそこにもある」という発見があったりして広がっているんですね。そこがすごくうれしいですね。ありがとうございます。

◆先生②:

今までは力がよく出せなかったけれども、この時をきっかけにして少し自信を付けたり、やっぱり自分で見つけているからそれを言いたくなったりという、少し今まで隠れていた力が出てきた感じなんですね。

◆先生①:

さっきのHくんの連絡ノートでも、次の日にマンションのエレベーターの中で会った人に、持っているおもちゃをその発表みたいに伝えていたと、親御さんもすごく喜んでいました。発表のホームページに載っている写真などを見て「昨日やったからかなと思いました」と言っていました。それもエレベーターの中の人にも伝えられたし、その一回の出来事が自信につながったから、たぶんいろんな人に言いたいという気持ちが、意欲が芽生えたんだと思います。これはすごいです。

◆スタッフ①:本当ですね。一気にホップ・ステップ・ジャンプですね。

◆先生①:そうですね。

◆スタッフ①::それをちゃんとお母さんも見届けてくださって…。

◆先生①:そうですね。

◆スタッフ①:

伝えてくださってうれしいですね。ちゃんと保護者の方に私たちのこの活動のことも伝えていてうれしいなと思いました。

◆先生①:そうですね。

◆先生②:

Eちゃんはこのサンドイッチなどもそうですが、その後いろんな公園に行ってもおままごとで、葉っぱなどで遊ぶ姿が増えていました。この間畑に行った時は、ブルーシートを今まで持っていったことはなかったんですけれども、持って行ってみたら、「ピクニック」と言って、お弁当からどんどん遊びが展開されていっていて、今まで以上によく遊び込んで

いる姿が見られていました。本当にこのプログラムをきっかけに遊びが深まったような印象を受けています。

◆スタッフ①:

みんなで畑に行く回数なども増えてたりしたんですか。

◆先生①:

そうですね。でもやはり暑くて行けなかったから、最近になって週に1回くらい行けるようになっていますが、子どもたちも畑に行くと言うとすごく喜ぶし、両面テープを剥がすのも、園でもやってみたり、1個下のクラスでも、1歳児クラスでもやってみたりしています。いろんなアイテムを使ってすごく喜んでやっていたという話を聞きました。

◆スタッフ①:

副園長先生から、他の学年でもやって、大きい子クラスは大きい画用紙作品を作ったという話を聞きました。その年齢なりの表現の仕方みたいなのですね。

◆先生③:

私はその時一緒に行けなかったんです。他の保育士から聞いた話では、ブルーシートのピクニックなどをすごく楽しんだのと、斜面をみんなで上ったり下りたりしたと聞きました。

◆スタッフ①:

あそこを上りましたか。

◆先生①:

上って楽しんだということでした。やはり畑で遊ぶ力がすごくよく身に付いてきているという話を聞きました。

◆スタッフ①:

うれしいですね。それこそ画用紙などはこちらで用意したものだけでも、何もそういうものを用意しなくても、そういう斜面や葉っぱや花で、自分たちで工夫して遊びがだんだん広がっていくようになりますね。

◆先生①:

今まで匂いを嗅ぐ子はあまりいなかったのですが、このプログラムの後からお花の匂いを嗅ぐ子がすごく増えました。きっと教えてくださったからだと思います。「何の匂い」と言いながら、よく匂いを嗅ぐ姿を見るようになりました。

◆スタッフ①:

うれしいですね。ありがとうございます。これからはもっとこんなふうにしていきたいということはありますか。

◆先生①:

今は植物などに興味がすごく深まってきているので、保育士が名前を答えられないとあいまいになってしまうのではなくて、しっかり「これは何の種類だ」と答えられるように保育士全体で共有していきたいと思ったりしました。葉っぱによって匂いの出方が違うなどという話もあったので、そういう一つ一つの特徴なども知れたら、もっと子どもたちに一つ一つの植物の楽しさを教えてあげられるのではないかと、もう少し勉強が必要だなと思っています。

◆スタッフ①:

私はおとといすごく面白いものを見つけました。今日、私はそれこそ伝えたくなくて持ってきてしまいました。もっとたくさん付いてるんですけども、これは葉っぱではないんです。これをポーンと投げてもらっていいですか。

◆先生①:投げますか。

◆スタッフ①:ほわーっと、もっと上からです。飛びました。

◆先生①:クルクル回ります。

◆スタッフ①:そう、クルクル回るんです。これも、こうです。

◆先生③:すごい。

◆先生①:すごい。

◆スタッフ①:

木の上からこれがおもりになって、ふわーっと回っていくんです。昨日は、これがいっぱい木にぶら下がっていたんです。これも投げてもらっていいですか？

◆先生①:はい。

◆スタッフ①:ふわーっと。

◆先生①:面白い。

◆スタッフ①:

ここに付いているのが種で、これも種だと思っんですけども、どんぐりはころころ転がって広がっていくし、これはこう風に乘っていくんです。ひっつき虫があるじゃないですか。

◆先生①:ありますね。

◆スタッフ①:

あれは人や動物にくっついてというふうには、遊びながら面白いとやるだけなんだけれども、これがだんだん年齢が上がってきて知識や興味が重なってくと、植物が一つ一つ子孫を残すための方法に一つ一つ特徴があったんだなというところにいつか気付いてきたら面白いな、そういう土台になるのではないかななどと思っています。

◆先生①:本当ですね。

◆スタッフ①:そうです。やっぱり見つけるとうれしくなってしまうんです。

◆先生③:これは何ていうのか、名前を知っていますか？

◆スタッフ①:これは…。

◆先生③:分かりませんか。

◆スタッフ①:これは分からなかったんです。これは分かります。これはアオギリという…。

◆先生③:アオギリ。

◆先生①:アオギリ。

◆スタッフ①:

はい、アオギリという木なんです。でも、私たちも知っていればできる限り大人には教えるんですけども、できれば知識を与えられるのではなく、興味を持ったら自分で調べていく、自分で知識を獲得するようになってほしいなと私たちは思っているんです。ではこれをどうやったら名前が分かるかという、これだけを見てもたぶん図鑑には載っていないんです。では葉っぱはどんな形かな、どんな花が咲くのかな、と四季を見ていくと分かったりするではないですか。それで特徴を捉えて調べていくんです。でも保育園や幼稚園時代はそこまではいいのかなと、けれども、ただ私たちはこういうことを知ってないと、子どもたちに紹介したり今みたいに「あれは面白いからやってみる？」と言えないので、そういう知識は持っていたいと思っています。これは本当に分からなくて、私もこれから調べたいなと思ってます。楓の仲間だと思えます。モミジはけっこうあると思うんです。今はこんなに茶色くなっていないですが、もう少し緑か赤なんです。ここを変えてくるとういう感じでこれのもっと小さいバージョンがくっついているので、それが大きくて面白いと思って拾ってきたんです。

◆先生③:これは遊木の森にあったのですか。

◆スタッフ①:

これは違います。これは県立美術館、この図書館の裏でこの間、講座があったのです。これは昨日家族で遊びに行ったところです。ここに3つ付いているものとか2つ付いているものとか、いろいろなんです。ぽろっと取れてしまったりします。いろんな面白いものがいっぱいあって、遊ぶ中からいろんな興味を持って、知識や科学的な見方とかにつながったら、と思います。

◆先生③:押し花を作ってほしいです。

◆スタッフ①:押し花。

◆先生①:押し花？

◆先生③:

押し花の標本集のようなものを園のライフワーク的にやって、子どもがそれを見て、あ、これだみたいな…。

◆先生①:すてきですね。

◆スタッフ①:そうですね。

◆先生③:誰かやってくれるでしょうか。

◆スタッフ①:

やはり大人は子どもに「これは何という名前?」「これは何?」と聞かれると、どうしても正解を言わなければならないと思ってしまうじゃないですか。でも正解は自分で求めていったらいいのかなと思っています。私たちは正解を求める求め方を示してあげればいいのかと考えています。今は変わっていったり、難しかったり複雑だったりするので、正解のないものばかりじゃないですか。そういうものを追い求める楽しさとか、そこを示していけるような大人でいたらいいなと思うんです。

興味を持っていただけてうれしいです。ありがとうございます。自慢してしまいました。もしかしたら清水寺公園にもこういう特徴のあるものがいろいろあるかもしれませんね。

◆先生①:そうですね。

◆スタッフ①:

遊べるといいですね。ありがとうございます。ラーニングストーリーは初めて書きましたか。

◆先生①:初めて記入しました。

◆スタッフ①:

そうなんです。これは遠藤先生に教えていただいたんですけども、こういうちょっとしたエピソードをためることで、保育の評価などを手法として積み重ねていきます。今聞かせていただいた子どもたちの変化なども見させていただきます。

◆先生①:ありがとうございます。

◆スタッフ①:

担任の先生方から、他の学年の子どもたちともこれをやってみたい、今度他園が来る時に、この間の畑でやったものをやってみたい、こうしたらどうかな、自分たちにはこういう勉強がもっと必要だ、ということが出てきた、と副園長先生がすごくうれしいとおっしゃっていました。

◆先生①:確かに、共有しあって一緒にこれをやってみようという話などが出ましたね。

◆スタッフ①:もっと広がっていくとうれしいです。

◆先生③:

子どもたちが今回こういうことでいろんなことに興味を持ったように、保育士さんたちもいろんなことに興味を持ってやっていけたらいいと思います。

◆先生①:

今はインターネットなどで調べることが多いですけども、こんな手段があったんだという、全然見たことのない発想がいっぱいあったので、本当にすごく全体で勉強になった感じがしました。

◆先生③:

ブルーシートを敷いておくだけでそこで遊びが広がったり、この間も椅子をこっちへ移動させて、それがテーブルになったりだとか…。

◆先生①:

子どもたちがすごく喜んでいました。本当に今まで持っていこうと思ったこともなかったですし、自然でというよりは走り回って遊ぶだけだったので、すごく勉強になりました。

◆スタッフ①:うれしいですね。

◆先生③:

そういういわゆる子どもたちの興味を引き出すような環境設定を常に考え出してもらっていると、たぶん1人では考え出せないと思うのですが、いろんな先生が考えたことを表明して口に出してもらえると、それをヒントにまた次を考えられたりしていくと思うので、そういう風土を保育士さんの中でつくってもらえるといいなと思います。

◆スタッフ①:

私たちも他の保育園や幼稚園で、保育士さん向けの研修みたいなものもその園に合わせた形でやったり、今回みたいに近くの公園でやってみたり、皆さんが見るものと私たちが見るものとは素材も違うので、こんなものがこんなふうに見えるよねということをやったりしているので、また機会があったらやりたいです。

◆先生③:

ぜひやってください。今回も畑でやってもらって、遊木の森へ行ってみたり、たぶん同じようなことができると思うんだけど、やっぱりあの場でいろんなことができるということを感じるとというのがすごい収穫でした。それはあそこだけでなく清水公園でも同じだろうし、この園庭でもそうだろうし、どこでもそういうことがあると思うんです。もちろん部屋の中でも、少し環境設定を変えてあげるだけで子どもの目が変わったりということは必ずあると思うので、そういうものをどんどんクリエイティブに考えていってほしいです。先生方は若いから何でも考えられるじゃないですか。

◆先生①:

新しい視点というのはすごく大事ななと思いました。

◆先生③:

ぜひ、多少無謀なことでもいいと思うので、どんどんいろいろなことに挑戦してもらいたいなと思います。

◆スタッフ①:そうですね。ぜひまたお役に立てることがあればと思います。

◆先生①:お願いいたします。

◆スタッフ①:ありがとうございました。

◆先生①②③:ありがとうございました。